



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年2月6日

上場会社名 株式会社フレンドリー 上場取引所 東  
 コード番号 8209 URL <http://www.friendly-co.com/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)中井 豊人  
 問合せ先責任者 (役職名)管理本部副本部長 (氏名)鮫島 篤志 (TEL)072(874)2747  
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	6,944	△3.2	△196	—	△164	—	△193	—
25年3月期第3四半期	7,179	△6.3	△88	—	△63	—	△152	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	△13 23	—
25年3月期第3四半期	△10 40	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	5,614	2,201	39.2
25年3月期	5,830	2,384	40.9

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 2,201百万円 25年3月期 2,384百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0 00	—	0 00	0 00
26年3月期	—	0 00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,193	△3.0	△264	—	△214	—	△278	—	△19 02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年3月期3Q	14,645,584株	25年3月期	14,645,584株
26年3月期3Q	27,760株	25年3月期	26,561株
26年3月期3Q	14,618,563株	25年3月期3Q	14,619,623株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7
5. 補足情報	8
生産、受注及び販売の状況	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社において開示対象となる報告セグメントは、フードサービス事業の単一事業であるため、業態区分別に記載しております。

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策推進を背景に、株式市場は好況が維持され、企業収益や個人消費に改善がみられるなど、景気は回復基調にあります。

当外食業界におきましては、一部では個人消費の回復の動きもみられるものの、消費税率引き上げや所得動向への懸念等により消費マインドの改善にはなかなか厳しいものがあり、円安の進行に伴う原材料価格の上昇や同業他社はもとより、異業種からの参入等、経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような環境のもと、当社におきましては黒字体質への転換を早期に果たすべく、平成22年10月に策定した「経営構造改革計画」を着実に実行してまいりました。「店舗数の拡大による規模の効果を求める経営から、利益率や各店舗ごとの採算性を重視する経営スタイルへの転換」「CS活動を軸にした企業風土の改革」を基本方針とし、具体的施策として、①業態ポートフォリオの見直し、②新業態の実験と展開、③オペレーションの改善、④CS活動への取組み、⑤不採算店舗の閉鎖、等に取り組んでまいりました。また現在、経費削減施策(原価率改善、人件費率改善、販売促進費の効率的な使用)に加え、今年8月に創業60周年を迎えるに当たり、1年前より大創業祭として『来店したお客様に幸せな気分を味わって頂き、お客様に笑顔で帰って頂く』をテーマに、笑顔になれたキャンペーンを展開するなど、新規顧客獲得やリピーター顧客数増加のための売上向上施策への取組みを実施しております。

店舗展開につきましては、「ファミリーレストラン フレンドリー」のリニューアルモデルとして「ハッピーコング 美原店」を業態転換し、「フレッシュフレンドリー 美原店」1店舗を新規出店いたしました。また、「ハッピーコング 泉北豊田店」を業態転換し、「源ぺい 泉北豊田店」を平成25年11月12日に新装オープンいたしました。よって、当第3四半期会計期間末の店舗数は、前事業年度末と変わらず97店舗となりました。

業態別には、「産直鮮魚と寿司・炉端 源ぺい」28店舗、「おいしい・たのしい・こちいい」をコンセプトとする洋食の「ファミリーレストラン フレンドリー」26店舗、「釜揚げ讃岐うどん 香の川製麺」17店舗、「日本の原風景“里山”」をコンセプトとする居酒屋「和み料理と味わいの酒 土筆んぼ」12店舗、「和・洋・中の料理と団欒」をコンセプトとする「団欒れすとらん ボンズ」11店舗、「ハッピーコング」1店舗、「新・酒場 なじみ野」1店舗、「フレッシュフレンドリー」1店舗となっております。

商品政策につきましては、“健康・安全・おいしさ”の見地から食材を厳選し、お値打ちな商品の提供と同時にライブ感を味わっていただけるように努めました。食の安全・衛生管理につきましては、引き続き「フレンドリー品質基準」の構築と衛生管理と検査体制を確立し、厳格に運用しております。

これらの結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高は6,944百万円(前年同期比235百万円の減少)、営業損失は196百万円(前年同期は営業損失88百万円)、経常損失は164百万円(前年同期は経常損失63百万円)、四半期純損失は193百万円(前年同期は四半期純損失152百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、5,614百万円で前事業年度末比215百万円の減少となりました。主な要因は、現金及び預金の減少によるものです。負債合計は借入金、未払法人税等の減少等により前事業年度末比32百万円減少し、3,413百万円となりました。純資産は四半期純損失等により前事業年度末比182百万円減少し、2,201百万円となりました。この結果、当第3四半期会計期間末の自己資本比率は、前事業年度末比1.7%減少し、39.2%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、個人消費マインドの回復の足取りは重いものと考えており、経営環境は引続き厳しいものと予想しております。「経営構造改革計画」の着実な実行により改革の実をあげてまいります。なお、詳細につきましては、平成26年1月31日付「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前期において6期連続の営業損失、8期連続の当期純損失となっており、平成23年2月より取引金融機関に対して借入金の返済猶予を要請していることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当該状況を解消すべく、平成22年10月に「経営構造改革計画」を策定し、その基本方針である「店舗数の拡大による規模の効果を求める経営から、利益率や店舗ごとの採算性を重視する経営スタイルへの転換」「CS活動を軸にした企業風土の改革」のもと①業態ポートフォリオの見直し、②新業態の実験と展開、③オペレーションの改善、④CS活動への取組み等、引き続き事業構造の改革に取り組んでまいりましたが、当第3四半期累計期間の営業損失は前年同期比108百万円増加いたしました。今後は、①業態ポートフォリオの再見直し(源ぺいを主力業態と位置付け、経営資源の投入をします。店舗数の多いフレンドリーはリニューアルモデルの構築に取り組みます)、②更なるコスト削減(原価低減・営業時間の見直し・賃料の削減)、③売上高の回復(CS活動の一層の展開によりお客様満足度を向上させることによるリピート来店客の増加、ブランド別マーケティングの展開によるコアとなるメニュー開発や販売促進等)に取り組む、業績の回復を果たしてまいります。

また、金融機関に対する返済猶予については、平成25年6月末から平成26年6月末に1年間延長されております。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,133,745	859,303
売掛金	50,019	57,526
商品	49,912	65,642
貯蔵品	1,088	1,088
前払費用	56,920	82,253
その他	10,711	24,998
貸倒引当金	△62	△67
流動資産合計	1,302,336	1,090,746
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	793,239	765,798
土地	2,112,191	2,112,191
その他(純額)	134,856	228,735
有形固定資産合計	3,040,288	3,106,725
無形固定資産		
	29,148	36,214
投資その他の資産		
投資有価証券	85,617	101,524
差入保証金	1,319,830	1,246,516
その他	55,566	35,586
貸倒引当金	△2,700	△2,550
投資その他の資産合計	1,458,314	1,381,077
固定資産合計	4,527,752	4,524,017
資産合計	5,830,089	5,614,763

(単位:千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	256,279	288,026
短期借入金	969,056	962,873
1年内返済予定の長期借入金	1,150,980	1,133,100
未払金	319,010	333,430
未払法人税等	52,108	33,424
その他	69,886	43,393
流動負債合計	2,817,322	2,794,248
固定負債		
資産除去債務	349,718	349,449
長期未払金	45,350	45,350
繰延税金負債	23,355	26,658
再評価に係る繰延税金負債	132,061	132,061
その他	77,841	65,426
固定負債合計	628,327	618,944
負債合計	3,445,649	3,413,193
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,975,062	3,975,062
資本剰余金	3,058,146	3,058,146
利益剰余金	△3,656,189	△3,849,595
自己株式	△11,933	△12,301
株主資本合計	3,365,086	3,171,312
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	19,158	30,063
土地再評価差額金	△999,805	△999,805
評価・換算差額等合計	△980,646	△969,741
純資産合計	2,384,439	2,201,570
負債純資産合計	5,830,089	5,614,763

(2) 四半期損益計算書  
第3四半期累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	7,179,961	6,944,199
売上原価	2,138,241	2,018,865
売上総利益	5,041,720	4,925,333
販売費及び一般管理費	5,129,777	5,121,968
営業損失(△)	△88,057	△196,634
営業外収益		
受取利息	3,602	2,900
受取配当金	1,706	1,912
受取家賃	91,148	79,567
設備賃貸料	24,102	24,447
その他	8,316	11,609
営業外収益合計	128,875	120,438
営業外費用		
支払利息	42,497	41,207
賃貸費用	48,923	35,173
設備賃貸費用	9,180	9,243
その他	3,431	2,627
営業外費用合計	104,032	88,251
経常損失(△)	△63,214	△164,447
特別利益		
固定資産売却益	999	—
賃貸借契約解約益	6,000	—
子会社清算益	1,449	—
特別利益合計	8,449	—
特別損失		
固定資産除却損	981	5,603
減損損失	62,684	—
賃貸借契約解約損	9,535	—
店舗閉鎖損失引当金繰入額	800	—
特別損失合計	74,001	5,603
税引前四半期純損失(△)	△128,766	△170,051
法人税、住民税及び事業税	25,136	25,054
法人税等調整額	△1,850	△1,699
法人税等合計	23,286	23,354
四半期純損失(△)	△152,052	△193,406



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社は、前期において6期連続の営業損失、8期連続の当期純損失となっており、平成23年2月より取引金融機関に対して借入金の返済猶予を要請していることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当該状況を解消すべく、平成22年10月に「経営構造改革計画」を策定し、その基本方針である「店舗数の拡大による規模の効果を求める経営から、利益率や店舗ごとの採算性を重視する経営スタイルへの転換」「CS活動を軸にした企業風土の改革」のもと①業態ポートフォリオの見直し、②新業態の実験と展開、③オペレーションの改善、④CS活動への取組み等、引き続き事業構造の改革に取り組んでまいりましたが、当第3四半期累計期間の営業損失は前年同期比108百万円増加いたしました。今後は、①業態ポートフォリオの再見直し(源ぺいを主力業態と位置付け、経営資源の投入をします。店舗の多いフレンドリーはリニューアルモデルの構築に取り組みます)、②更なるコスト削減(原価低減・営業時間の見直し・賃料の削減)、③売上高の回復(CS活動の一層の展開によりお客様満足度を向上させることによるリピート来店客の増加、ブランド別マーケティングの展開によるコアとなるメニュー開発や販売促進等)に取り組む、業績の回復を果たしてまいります。

また、金融機関に対する返済猶予については、平成25年6月末から平成26年6月末に1年間延長されております。

これらの対応策は一定の成果を挙げておりますが、当初予定していた業績の回復には至っておらず、現時点において継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、フードサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 5. 補足情報

## 【生産、受注及び販売の状況】

当社において開示対象となる報告セグメントは、フードサービス事業の単一事業であるため、主に業態区分別に記載しております。

## (1) 生産実績

記載すべき事項はありません。

## (2) 受注実績

記載すべき事項はありません。

## (3) 販売実績

当第3四半期累計期間における販売実績を業態区分別に示すと、次のとおりであります。

(単位：千円)

業態区分の名称	当第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	前年同期比(%)
産直鮮魚と寿司・炉端 源ぺい	2,393,640	100.8
ファミリーレストラン フレンドリー	1,777,448	95.8
和み料理と味わいの酒 土筆んぼう	901,126	94.2
釜揚げ讃岐うどん 香の川製麺	891,493	93.5
団欒れすとらん ボンズ	737,854	101.1
ハッピーコング	141,589	56.4
新・酒場 なじみ野	67,621	113.5
フレッシュフレンドリー	33,426	—
合計	6,944,199	96.7

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 「ハッピーコング」は、前第3四半期累計期間に比べ、3店舗から1店舗に減少しております。